

地震災害予測研究会（第6回）議事要旨

日 時：平成22年10月4日(月) 14:00～16:00

場 所：損保料率機構 3階C会議室

出席者：（順不同、敬称略）

（委員）北川良和 翠川三郎

額瀨一起 腰原幹雄 境有紀 林康裕 緑川光正

（機構）大滝(リスク業務室長) 江口(火災・地震保険部長)

丸楠(火災・地震保険部地震グループリーダー)

（事務局）損保料率機構リスク業務室

議 事：

1. 今後の検討方針と保険実績の分析の進捗報告について

A. 事務局より、地震動予測手法に関する検討に優先して保険実績の分析に基づく被害予測手法の検討を行う方針の説明をした。その後、過去の地震保険の支払実績に基づいた罹災率と幾つかの地震動指標との相関について分析した結果を報告した。

B. 委員から、下記の意見があった。

- 1) さまざまな機関から公表されている地震動の観測記録をできるだけ収集すべき。
- 2) 木造住宅は建築年代による耐震性能の差が大きいと考えられる。建築年代別の分析は行うべき。
- 3) 一部損の被害は、さまざまな要因によって発生すると考えられるため、もともと地震動の大きさに対する罹災率のバラツキが大きいと思われる。
- 4) 罹災率と地震動指標との相関分析を行う上で、統計的な手法だけに頼るのではなく、1つ1つのデータの吟味や要因の分析を行うべき。

以 上